

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	131705		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。										
事務事業名	障害者（児）福祉金事業						担当部局・課	健康福祉部 地域福祉課					
事業内容	障害者や母子に対する福祉金の支給。申請主義。障害者月額1,000円～2,000円 母子月額1,500円～2,500円 支給月 4月・8月・12月						事業開始(予定)年度				評価結果 D 上位施策に対する貢献度が低い、若しくは役割を終えた事業で、中止・休廃止を視野に入れた抜本的な見直しが必要。 上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。		
							昭和38年度						
							事業終了(予定)年度						
							—						
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現										
		項目	きめ細かな地域福祉の推進										
		施策	障害者の経済的自立への支援										
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年（H18～22年度）に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。												
事業の目的	障害者やその保護者または母子に対し、市民福祉金を支給することにより、経済的・精神的ハンディキャップを克服し、自主性や生きがいを援助する。						予算費目 （複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。）	(款) 民生費 (項) 障害福祉費 (事項) 援護措置等給付関係費 (目) 障害福祉総務費					
事業費等の概算	平成17年度(決算)						平成18年度(予算)						
	事業費	275,252千円	財源内訳				事業費	186,960千円	財源内訳				
			国・県補助金等		—				国・県補助金等		—		
			市 債		—				市 債		—		
			その他(使用料等)		—				その他(使用料等)		—		
			一般財源(市税等)		275,252千円				一般財源(市税等)		186,960千円		
	投入人員	1.19人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				投入人員	0.05人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	10,194千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				人件費	428千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
	経費合計	285,446千円						経費合計	187,388千円				
活動指標	指標名(単位)	指標なし						計画と実績	年度 区分	H17年度	H18年度		
	意味・算式等	—							計画値	7,054	7,173		
									実績値	7,088			